南陽っ子だより ⑥

前回まで３回にわたって，「マイクロアグレッション」（無意識の差別的な言動）の話をさせていただきました。
「南陽っ子だより」の３号で，私自身が前任校で経験した「マイクロアグレッション」の例について紹介させてもらいました。電話してきた女性は，元教員であることを自ら名乗っていたこともあり，「学校だより」に紹介された子供のことを心配していたことは明らかです。しかし，その背景には確実に偏見や差別意識が感じ取られました。しかも，元教員と名乗るくらいですから・・・。女性本人には全くの差別意識の自覚がありません。
つまり，社会に根強い差別意識が存在していることをまざまざと見せつけられた感覚を受けました。その場にいた職員は一様に強い憤りを感じました。
それと同時に，この「間違った概念」を変えていかなければならないという現実にも気づかされました。

特別支援教育児童・生徒数（全国小・中学校）

全体の児童生徒数　合計：約 961万人　（令和３年度）
（平成23年度の約 0.9 倍）
特別支援教育を受ける児童生徒数
合計：約 53.9 万人　（令和３年度）
（平成23年度の約 1.9 倍）
特別支援学校 児童生徒数
合計：約 146,300 人（令和３年度）
（平成23年度の約 1.2 倍）
特別支援学級 児童生徒数
合計：約 326,500 人（令和３年度）
（平成23年度の約 2.1 倍）
通級指導教室児童生徒数
合計：約 134,200 人（令和元年度）
（平成21年度の約 2.5 倍）
文部科学省 HP より

これは，特別支援教育を受けている全国の児童生徒数の統計です。
少子化の影響で全体の子供の数が減っているにもかかわらず，特別支援教育を受ける子どもの数が大幅に増えています。

なぜふえているの？

それは，正の要因と負の要因の２つに分けて考えると，次のような理由が挙げられます。

（正の要因）
① 間違った概念→正しい理解への変化。
② 正しい理解・・・当事者（子供たち）の苦しみへの気づき。
③ 子供たちが抱える苦しみに対する理解の深まり。
④ 特別支援教育の内容の変化。
⑤「困り感」を抱えた子供たちや保護者への支援体制。

（負の要因）
① 昨今のメディア視聴（TV，ネット，スマホ等）の多さ
② 睡眠の不整
③ 周囲の無理解によるストレス
など

次回は，これらの要因について話を進めていきます。

文責：田崎勇

きるメリットがあります。